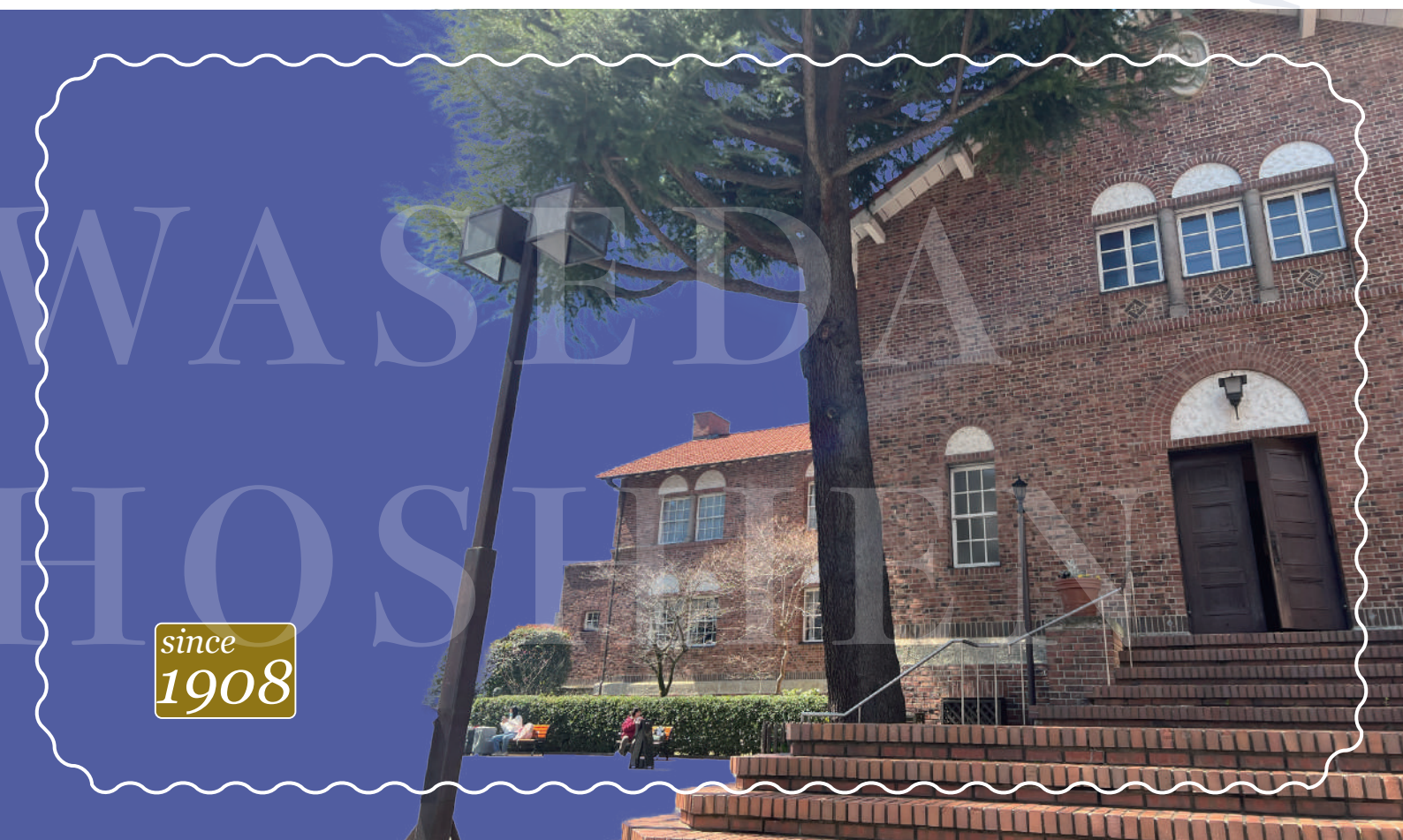


公益財団法人 早稲田奉仕園

2023 年度 年次報告書

【2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日】

WASEDA HOSHIEN ANNUAL REPORT



早稲田奉仕園 園章

“

そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

”

マルコによる福音書 10 章 42 - 45 節
(新共同訳聖書)

公益目的事業

4

- 4 国際相互理解のための体験活動・普及啓発事業
- 6 国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業
- 6 国際相互理解のための語学講座・その他講座事業
- 9 学寮運営事業

収益事業

12

- 12 セミナーハウス（会議施設・ホール施設の貸与）事業
- 13 駐車場・貸事務所等の賃貸、管理受託事業

財団運営報告

14

- 14 決算報告
- 15 役員等名簿

公益目的事業

■国際相互理解のための体験活動・普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding 沖縄フィールドワーク

5月3日～6日まで、沖縄フィールドワークを開催しました。友愛学舎生、他寮生など計7名（台湾、アメリカからの留学生を含む）の大学生が参加しました。本島と伊江島で、沖縄戦や米軍基地問題についてより深く学ぶことができました。伊江島では「ヌチドゥタカラの家」および「反戦平和資料館」にて、たくさんの写真や当時の遺留品を通して人々の戦後の抵抗の歴史を目の当たりにしました。



■日中韓大学生相互交流ワークショップ2023 in 韓国

コロナ感染拡大の影響によりオンライン開催となっていた日中韓大学生交流ワークショップを、海外渡航プログラムとして再開しました。8月21日～24日にかけて韓国・テジョン市にある国立ハンバツ大学を会場として、日本からは7名の学生が参加しました。学生たちは、キャンパスや大学周辺のカフェなどで韓国の大学生の日常を味わい交流を深めました。また、韓国の一般家庭でホームステイも体験、韓国独立記念館では共に歴史を学び、視野を広げました。



■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進するプログラムです。歌舞伎鑑賞は、6月23日に22名が参加、英語解説付きで留学生も初めての歌舞伎を楽しめたようです。7月には寮のロビーに笹を用意し、留学生による願い事が書かれた短冊が飾られました。七夕当日、RA（寮アシスタント学生）が企画したたこ焼きパーティーは約10名でこじんまりと開催されました。さらに、3月はひな祭りに合わせ、ロビーにひな人形が展示されました。



■祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～ Vol. 7

敬虔なクリスチャンであった渡辺禎雄は生涯にわたり聖書を題材とした型染版画を作りました。普遍的なキリスト教と日本の日常性との出会いから生まれたその作品は、国内外で高い評価を得ています。第7回となる展覧会は、12月10日～24日までスコットホールギャラリーで開催、約50名の来場がありました。故齋藤治子氏のご遺族より寄贈された渡辺禎雄型染版画コレクションのなかから、初公開となる中品サイズの作品11点を中心に展示を行いました。各作品の隣には同じタイトルの大判作品を何枚か選択し、配色や表現の違いなどを見比べていただけるように配置しました。



■所蔵作品の貸出

キリスト教美術の振興・発展および作品を通じてのキリスト教思想・文化への理解促進を目的として、渡辺禎雄型染版画の所蔵作品の貸出事業を5月に開始しました。【お問い合わせ gallery@hoshien.or.jp】

■国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

日本語ボランティアの会は日本語を母語としない人々を対象に実用的な日本語を学ぶ機会を提供しています。今年度は対面クラスとオンラインクラスを並行しました。ボランティアの減少に伴い予約・事前マッチング制度を導入し、活動を行いました。年間計79日（水曜日41日、金曜日38日）の授業、のべ参加人数はボランティア920名、学習者1,303名でした。ボランティアが熱心に学習者を教え、日本語を必要としている人たちの大切な居場所となりました。



■野宿者支援給食活動

月2回、渋谷で野宿を余儀なくされる方々へお弁当と保存食を届けています。今年度は活動に多くの学生や青年（準備に年間のべ395人、配食にのべ424人）が参加し、ボランティア数は過去最多を更新しました。年間、のべ2,533人の方にお届けすることができました。保存食は学校の備蓄（聖望学園中学校・高等学校他）やNPO法人セカンドハーベスト・ジャパン、日本福音ルーテル帯広教会、そのほか個人からの寄付も多くありました。また、大学から活動についての講演やフィールドワーク受け入れの依頼を受けました。早稲田教会より車両購入のための寄付をいただき、新しい車が活躍しています。

共催：早稲田教会



■国際相互理解のための語学講座・その他講座事業

■多文化共生のためのボランティア講座

—地域における日本語学習支援について学びましょう—

茨城大学大学院助教、親子サークル「多文化ひろば あいあい」代表の福村真紀子さんを講師に、4月8日～7月1日まで全10回（対面3回、オンライン7回）のスケジュールで講座が開講されました。4名が受講し、多文化共生社会の創生に資するためにどのような支援ができるのか、地域日本語教室活動を例に模索しました。



■ Let's 朗読

朗読家・「VoiceK」主宰の飯島晶子さんによる「Let's 朗読」は、8名の受講生で開講されました。朗読の基本や声の出し方などを学び、詩や物語の世界で感性を磨くことができました。コロナの状況を鑑み、全8回中対面クラスを3回にし、残りはオンラインクラスで実施しました。受講生も朗読の定期的な発表会などに向けて練習に励み、目標に向かって着実に実力をつけています。



■ パイプオルガン・アカデミー

桐朋学園大学講師・早稲田教会オルガニストの水野均さんによる「パイプオルガン・アカデミー」では、のべ81レッスン・1体験レッスンを実施しました。受講生は13名で、年齢層も幅広く、隔年で開催している発表会などそれぞれの目標に向かってレッスンをしています。

協力：早稲田協会



■ ラジャゴパール氏講演会

インドの非営利団体エクタ・パリシャド創設者のラジャゴパール氏が、第40回庭野平和賞受賞のために来日され、5月9日、リバティホールにて講演会を行いました。早稲田奉仕園、日印サルボダヤ交友会、アーユス仏教国際協力ネットワーク、シャプラニール=市民による海外協力の会の共催で20名ほどが参加、ガンディー主義に基づき、非暴力と対話によって政府へ働きかけをしてきた活動をお伺いする機会となりました。



■ STUDY HALL

「STUDY HALL」は、主にアメリカなどで「自習室」という意味で使われます。あらゆる世代の人が、楽しく学べる場として、「近いこと、遠いこと、近くて遠いことを学ぼう」をテーマに、講座・トーク・映画上映会・写真展・ライブなどのイベントを不定期に開催しています。



● STUDY HALL vol. 39 映画「隠された爪跡」 & 《In-Mates》 同時上映会

関東大震災から 100 年の節目に合わせ、5 月 27 日にスコットホールで朝鮮人虐殺についての映画を 2 本上映し、約 120 名が参加しました。スコットホールは、この虐殺の追悼式が 1924 年に初めて開かれた場所です。上映後、共催の「百年(ペンニョン)」の内山晴海さんと《In-Mates》監督の飯山由貴さんがそれぞれトークを行いました。

● STUDY HALL vol. 40 映画「標的」上映会&アフタートーク

7 月 29 日に、ジャーナリストの植村隆さんを追った映画の上映とアフタートークを行い、2 回の上映で 47 名が参加しました。映画は、朝日新聞記者時代に捏造記事を書いたとして右派からの標的となった植村さんのドキュメンタリー。早稲田奉仕園友愛学舎出身でもある植村さんはトークの中で「友愛で在日コリアンの先輩と出会い、韓国との接点ができた」と語っておられました。

● STUDY HALL vol. 41 キッチンテーブルから伝えるミャンマーのいま

12 月 16 日、TVディレクターの樋爪かおりさんを司会にむかえ、日本在住 30 年以上となるビルマ人夫妻ウィン・チョウさんとマティダさんをお招きしたトークイベントを開催しました。32 名が参加し、2021 年 2 月の軍事クーデター以来、多くの市民が過酷な生活を強いられているミャンマーの現状をお伺いしました。激戦地の若者たちや空爆の恐怖に晒されながらも学校に通う子供たちとオンラインで結び、“リアルな声”を知ることができました。

■キリスト教講座

日本クリスチャン・アカデミーとの共催で、キリスト教を多角的な観点から学ぶプログラムです。今の時代の中で、聖書や文学作品が語りかけてくるメッセージに共に耳を傾け、日本プロテスタントの基を作った人々について学びました。

●オンライン講座：聖書講座—新しい聖書の学び『マルコ福音書をジックリと読む』（第 6 期）

聖書学者の山口里子さんを講師に、マルコ福音書 12 章 38 節以下を 66 名の受講生とともに読み進めました。2018 年度から始まった本講座も今年度で終了となり、6 年間の成果を盛り込んだ講師による著作『マルコ福音書をジックリと読む—そして拓かれる未来の道へ』（ヨベル発行）が刊行されました。また、本講座終了後、特別企画として「贖罪論に関するおしゃべりの会」を開催しました。

●オンライン講座：聖書講座特別編 聖書に向き合う LGBTQ+ (プラス) のキリスト者たちと

「マルコ福音書をジックリと読む」講座の一環として、聖書学者であるベルナデッテ・ブルーテンさん(ブランダイス大学名誉教授)を講師に迎え、6 月 13 日に開催しました。LGBTQ+ に関する最新の神学、聖書解釈の可能性について、古代ユダヤ、地中海・ローマ世界におけるジェンダーや婚姻、社会制度からの視点も含め、多角的に紹介していただきました。21 名の方が集い、豊かな学びの時をもちました。



●オンライン講座：日本キリスト教史を読むⅢ 昭和編

日本基督教団牧師・日本聖書神学校等講師の戒能信生さんを講師に、第Ⅰ期明治編、第Ⅱ期大正編に続き、今期は昭和の日本のキリスト教をリードした人々、由木康、赤岩栄、木俣敏、鈴木正久、北森嘉蔵、井上良雄、隅谷三喜男の生涯とその信仰理解を学びました。36名が受講しました。

●オンライン講座：キリスト教文学に学ぶ

キリスト教に深く根ざした文学の魅力ー遠藤周作『沈黙』『深い河』から宮沢賢治『銀河鉄道の夜』へ

ノートルダム聖心女子大学教授の山根道公さん、山根知子さんを講師に、遠藤周作、宮沢賢治の作品に見られるキリスト教を読み解き、日本におけるキリスト教思想の受容について学びました。19名が受講しました。

●対面講座「キリスト教と文学」読書会

文芸評論家の柴崎聰さんを講師に、山本周五郎、阪田寛夫、シェークスピア、井上ひさし、アガサ・クリスティー、長与善郎、スティーブン・キング、辻邦夫の作品を精読し、そのキリスト教信仰や思想を読み解く読書会を開催しました。対面で行われたこの読書会には各回平均11名の方が参加しました。

■学寮運営事業

■友愛学舎

1908年創設の大学学部生寮です。3年生3名、2年生4名、1年生3名の10名で寮生活を送りました。

活動は、学期期間平日の「朝の会」での聖書研究や学生発表、寮生活について話し合う月一回の「舎生会」に加え、新たに友愛学舎OB・OGや早稲田奉仕園関係者を招く「夜の会」を舎生が企画し、学生時代の取り組みや、社会人になってからの話を聞く機会を持ちました。舎生には見聞を広めるための研修参加助成を行っており、「部落解放ユースゼミナール」（日本基督教団部落解放センター主催）、「マイノリティ・ユース・フォーラム 宮古島を旅する新たなつながりへ 新たなうごきへ」（マイノリティ宣教センター主催）に各1名が参加しました。



■ゲストハウス

外国人留学生または日本人の大学学部生・大学院生、研修者向けの寮7室を運営しています。のべ9名が在寮しました。

■国際友愛学会

早稲田大学の交換留学生を中心とした外国人留学生、研究員のための寮152室を運営し、安全で快適な留学生生活をサポートしています。RAを含んだ留学生は37の国と地域からのべ256名が在寮しました。

オンラインで寮生の本国の現地通貨で寮費を納付することができる決済システムを新たに導入し、支払いの利便性が大幅に高まりました。

(2023年度)

アメリカ	72	イギリス	28	日本	17	ドイツ	16
韓国	14	台湾	12	中国	12	フランス	10
イタリア	10	スウェーデン	7	オランダ	6	アイルランド	5
スイス	5	スペイン	5	オーストラリア	4	シンガポール	3
香港	3	フィンランド	3	オーストリア	2	カナダ	2
タイ	2	チリ	2	デンマーク	2	インド	1
ルーマニア	1	ルクセンブルク	1	トルコ	1	インドネシア	1
メキシコ	1	マレーシア	1	ポルトガル	1	ノルウェー	1
エクアドル	1	ニュージーランド	1	スロバキア	1	ベトナム	1
チェコ	1						

■寮プログラム

早稲田奉仕園の学生寮は国際的な相互理解と交流をめざす教育プログラムを実施しています。

●ウェルカムパーティー

4月23日、RAが主催して、春に入寮したばかりの留学生たちを歓迎するピクニックが井の頭公園で行われました。約20名の参加があり、お弁当を食べたり、スポーツなどを通して寮生同士仲を深めました。

また、9月26日には、友愛舎生が主催して、秋入寮の留学生たちに向けたウェルカムパーティーがリバティホールで行われました。約30名が集まり、軽食をとりつつ自己紹介やゲームなどを通じてお互いを知る楽しい交流の時間となりました。



●専仕■クリスマス会

12月9日、寮生を中心に約50名がスコットホールに集まりました。ろうそくを灯し過ごす「しずかなひととき」、留学生やRAによるパフォーマンス、そして友愛学舎生による友愛紹介およびクイズタイムなど、充実したプログラムとなりました。その後、寮ロビーに場所を移してピザパーティーで盛り上がりました。



●Cooking Exchange Program

5月27日と11月11日に、各回RAと留学生、約10名で「卵焼き&巻き寿司」作りを行いました。簡単に作れる和食の定番メニューを通して、留学生たちも食文化や調理の仕方について学ぶ時間をもつことができました。コロナ感染状況も少し落ち着いてきたため、料理をお皿に盛り付け、みんなで懇談しながら味わいました。留学生活の楽しい思い出作りができました。



●留学生スキー研修●万座温泉

1月13日～14日、群馬県にある万座温泉で、留学生たちがスキー・スノーボード体験にチャレンジしました。留学生8名、RA1名が参加しました。初めてゲレンデを訪れる留学生はスキー教室で基本姿勢など学び、大きなゲレンデを満喫しました。また温泉も楽しみ、参加者間で懇談する時間を持つことができました。



■健康相談室の運営

寮生の希望者にオンラインで面談を実施し、健康相談を行いました。

■キリスト教学生寮懇談会

都内および近郊のキリスト教主義による学生寮ネットワークです。友愛学舎を含む10学寮(信愛学舎、山手学舎、山上学寮、東京ティラナスホール、登戸学寮、春風学寮、東大YMCA寮、一橋YMCA寮、同志会学生寮)が加盟しています。担当者による会合は開催できませんでしたが、見学や入寮希望の問い合わせなどで連携を取り合いました。

収益事業

■セミナーハウス（会議施設・ホール施設の貸与）事業

■施設の貸与

●会議室・ホール

学習会、語学教室、音楽練習やコンサート、講演会など学生・市民による学びの場・発表の場として多岐にわたってご利用いただきました。コロナの終息に伴い、特に大学サークルや外国語・朗読・文芸・詩作サークルの定期的な利用が顕著でした。

●ギャラリー

一年を通して様々なジャンルの展示利用、そしてリピート利用も増えました。

7月24日～8月6日	トゥーヴァージンズ(衣裳)
10月25日～10月29日	Contemporary Japanese Violin Makers(楽器)
11月2日～11月7日	森の時間・森の贈物Ⅱ 日本画展 -岡田欣也-
11月12日～11月19日	渡辺稔浩陶展「祈り」
11月23日～11月27日	みんなの漆展 村井養作漆サロン
12月6日～12月10日	トナカイは点滅している(絵画)
3月8日～3月10日	パリと音楽～世紀末の街角～(アンティーク雑貨)
3月17日～3月23日	五十棲さやか墨絵展 波の音を聞く

●撮影

フォトウエディング、ファッション雑誌・カタログ用の撮影で多くの利用をいただきました。

	スチール	動画	合計
2023年度	107	6	113
2022年度	120	14	134
2021年度	124	21	145
2020年度	49	30	79
2019年度	33	14	47

●スコットホール補修

2023年度から2年間の予定で、講堂照明、廊下と階段部分の大規模補修を行っています。床に敷かれていた絨毯をはがし、建物本来のナラ材の美しい木目を復活させました。

■セミナーハウスプログラム

●チャリティ古本市

6月～8月上旬までセミナーハウスロビーで開催された古本市の売上は、計35,135円でした。2022年度の売上19,205円と併せて、国際的な医療・人道支援団体「国境なき医師団」に全額寄付いたしました。

●「サイトウヤスヒロ展」

9月13日～9月18日にかけて、サイトウヤスヒロさんの絵画展をスコットホールギャラリーにて開催し、60名の来場がありました。サイトウ氏は武蔵野美術大学大学院美術科油絵コースを修了後、フランス・パリのアカデミー・グラン・ショミエール美術学校、パリ美術大学で学び、ル・サロン展 (Société des Artistes Français SALON) やドートンヌ展 (Salon D'AUTOMNE) で入選。以来、日本やフランスで個展を開催している作家さんです。



●スコットホール公開日・ガイドツアー

10月26日、午前のガイドツアーと午後の講堂見学会の2部構成で「スコットホール公開日」を開催しました。今年度は抽選申込を導入し、見学会に117名、ガイドツアーに35名の方にご参加いただきました。初めての試みでコーヒーサービスを行い、スコットホールにて活動しているNGOシャプラニールのフェアトレード商品販売コーナーも設けました。



■駐車場・貸事務所等の賃貸、管理受託事業

月極駐車場、貸事務所の賃貸のほか、キリスト教会への施設貸出をしています。また、近隣の早稲田大学施設の管理もおこなっています。

■決算報告

正味財産増減計算書 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位: 円)

科目			金額	
I. 一般正味財産 増減の部	1. 経常 増減の部	(1) 経常収益	事業収益	263,117,828
			受取補助金収益	673,112
			受取寄付金収益	1,251,756
			受取会費収益	455,000
			雑収益	119,100
			受取保証金償却益	7,500,000
			経常収益計	273,116,796
	(2) 経常費用	事業費	229,559,748	
		管理費	12,717,238	
		経常費用計	242,276,986	
			当期経常増減額	30,839,810
2. 経常外 増減の部	(1) 経常外収益	経常外収益計	0	
	(2) 経常外費用	経常外費用計	0	
		当期経常外増減額	0	
		税引前当期一般正味財産増減額	30,839,810	
		法人税、住民税及び事業税	4,449,804	
		当期一般正味財産増減額	26,390,006	
		一般正味財産期首残高	753,312,168	
		一般正味財産期末残高	779,702,174	
II. 指定正味財産 増減の部		当期指定正味財産増減額	5,333,397	
		指定正味財産期首残高	7,027,416	
		指定正味財産期末残高	12,360,813	
III. 正味財産期末残高			792,062,987	

貸借対照表 (2024年3月31日現在)

(単位: 円)

科目		金額	科目	金額		
I. 資産の部	1. 流動資産	93,204,180	II. 負債の部	1. 流動負債	72,300,901	
	2. 固定資産	(1) 基本財産		479,481,448	2. 固定負債	389,888,399
		(2) 特定資産		22,551,533	負債合計	462,189,300
		(3) その他	659,015,126	III. 正味財産 の部	1. 指定正味財産	12,360,813
		固定資産			2. 一般正味財産	779,702,174
		固定資産合計	1,161,048,107	正味財産合計	792,062,987	
資産合計		1,254,252,287	負債及び正味財産合計		1,254,252,287	

■役員等名簿（2024年3月31日現在）

理事

理事長（代表理事）	内田勝一（早稲田大学元副総長）
専務理事	阿部千秋（早稲田奉仕園）
常任理事	相賀昇（日本基督教団田園都筑教会牧師） 古賀博（日本基督教団早稲田教会牧師） 吉原洋（エコノミスト）
理事	稲垣隆一（弁護士） 小川忠（跡見学園女子大学教授） 土屋忍（武蔵野大学教授） 篠原初枝（早稲田大学教授） 名取智子（日本キリスト教海外医療協力会事務局次長） 西川嗣夫（早稲田奉仕園）

評議員

石川良一（東京都議会議員）、伊藤圭之（京都市役所）、
大江浩（賛育会赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長）、
尾内一美（早稲田大学国際部事務部長）、岡崎菜佳子（日本基督教団都民教会牧師）、
小川有閑（浄土宗蓮宝寺住職）、関伸子（カンバーランドキリスト長老教会東小金井教会牧師）、
杉尾麻帆（ヨンソンテコンドー道場）、友金孝夫（早稲田大学学生部事務部長）、
原真由美（関東学院大学講師）、土方恭子（弁護士）、李明生（日本福音ルーテルむさしの教会牧師）

監事

大橋正明（恵泉女学園大学名誉教授）、山崎龍一（お茶の水クリスチャンセンター常務理事）

機関紙、報告書をご希望の方は郵送いたしますので、メール（press@hoshien.or.jp）にてご連絡ください。

- ・奉仕園通信（機関紙）
- ・沖縄フィールドワーク報告書（冊子）
- ・日中韓大学生相互交流ワークショップ in 韓国報告書（冊子）
- ・友愛学舎文集（冊子）



www.hoshien.or.jp



公益財団法人 早稲田奉仕園

発行日 2024年8月10日

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-1

Tel 03-3205-5401 Fax 03-3205-5413

